

JICA関西訪問（2017. 7. 10）

IIN会員：11名、日本語教室の会員：3名が、神戸市中央区脇浜海岸通に在る「 JICA関西 」を訪問しました。

JR灘駅から海の方角に汗を拭き拭き歩くこと15分、綺麗な建物に到着、玄関扉を潜ってびっくり！

海外からの研修員が居て、フロントには職員が、ユニフォームを着て対応していました。

あれっ！、どこかのリゾートホテルかいな？



JICA関西訪問は、

IIN恒例行事として組み込まれていますので、皆さんは、よくご存じの事と思います。

JICAとはと書き始めるのが順当だと思いましたが、過去の訪問記と同じでは芸がないし、かと言って別物に書ける筈もなく、... この部分は、過去の記事に依りかかることにしました。

2013/ 7/ 2 JICA訪問

2014/ 7/ 2 JICA訪問

2015/ 7/ 6 JICA関西の見学

2016/ 7/ 5 JICA関西見学 を読んで頂けたらと願います。

加えて、



[JICAのホームページ](#) < [JICA（国際協力機構）](#) > を参照して頂けたらと思います。

JICAのホームページでは読み取れないことがあります。それは、

日本全国にはJICAの拠点が15か所ありますが、一律の事業を行っているのではなく、其々の地域の特色を生かして事業を行っているとの事でした。

関西で言えば、

- ・ 先の”阪神淡路大震災”からの復興ノウハウ
- ・ 震災の経験に基づく防災の考え方
- ・ 関西の企業群の営み 等々

対応に現れたJICA職員の柳さんがこのように教えてくれました。

レクチャー会場では、いきなりの質問 ！

- 開発途上国とはどういう国かご存知ですか？

参加された皆さんはあれこれ応えていましたが、私は、目を合わせないよう俯いた。

開発途上国とは、

” 経済発展や開発の水準が先進国に比べて低く、経済成長の途上にある国を指す” だと。



であったとしても、そこに住む人は、果たして不幸なのか？

柳さん曰く、

彼女の赴任した” フィジー” は、世界幸福度ランキングが世界第一位だとの事。

貧しくとも、 ” スローな時間と美しい海” 心豊かな日々がそこにある。” とは言っても、

貧しければ、失わずに済んだであろう命が消える現実があります。

救える命があれば、そこに行って手助けをする。

直接的な支援もあるが、将来、自力で出来るように手助けをするのが開発援助であると。

その活動は、インフラの整備、教育支援等、広範囲に渡ります。

フィジーにおける柳さんの任務は日本語を教える事。先ずは、その様子を見て下さい。

(フィジーでの写真は、柳さんから提供していただきました)



写真を見る限り、

日本語を教えるという任務は、

問題も無く、順調に見えます。

こう言った事もありましたと、柳さん。

とても熱心に、日本語を学ぼうとする若者が居ました。時に、遅れて来たりするので問うと、貧しくて、バスを利用することが出来ず、それ故、何時間も掛かる道を歩いてくるとの事。歩いてでも学ぼうとする若者、歩かなくても済むように配慮する柳さん。

このような頑張る姿を想う度に、私の目には感動の涙が浮かぶのです。

JICAは国家の事業ですが、赴任した個々人の奮闘が陰にあってこそ成果があるのでしょうか。

さて、

柳さんは”スローな時間と美しい海” 心豊かな日々” だったのでしょか ？

前頁の写真の文字 ” **わたしのモノはみんなのモノあななのモノもみんなのモノ** ” とは
フィジーでの物事の考え方です。

例えば、

” 私が買った消しゴムが、あっちこっちで使われていた。 ”

日本ならば、

” 私のだから返してよ ” と言うでしょうが、

学校であれ、生活の場であれ、全て、この考え方により生活が営まれているとの事。

これが” KEREKERE” という考え方。

限りある物を皆で共有しようというシェアの概念だそうです。

消しゴム程度であればともかくも、生活全般となると、ちと閉口するかも知れません。

聞けば、

爆発寸前の時もあったそう、
家主さんが発揮する” KEREKERE” で
自分の物がいいように使われて、
憤りを覚えた時もあったけれど、

借りている宿舎の鍵を忘れ困っている時、
この考え方に助けられた面があった言っていました。



観光目的での外国滞在であれば、あれっ、おかしいぞと思える事が起きても深刻にはなりません。

一定期間、外国に滞在する人は、誰も”日本の常識”を背負って赴任します。

そこで相手の常識とぶつかり、悩み、苦しみ、怒りを覚える事も。

日本の常識が世界の常識とは限らないのですね。

レクチャーしていただいた、柳さん、

赴任中は、辛い事、苦しんだ事もあったでしょうが、
輝いていました。

次回も、

- 辛かった話
- 苦しんだ話
- 爆発した話

を聞きたいと願います。



研修室でのレクチャーの後、
長期研修員の為の宿泊設備やスポーツ設備を案内していただきました。
世界各国の文物も展示されていました。



見学が終了してJICAレストランにて昼食。

このレストランは研修者のみならず、
JICA職員も利用していて、
広々として明るい立派な設備です。

当日の目玉料理は、
世界一辛いという触れ込みの「ブータン料理」、
苦手な私は注文を遠慮しましたが、
少しだけ味見、???!!!。アレッ?、
日本に来て辛くなくなっていました
(日本人向けにアレンジされたと思える)



幸せとは ?

開発援助とは ?

を考えた、一日でした。

知っていそうで実は知らない事が多い。

”百聞は一見に如かず”という言葉に噛みしめた一日でした。